實物大の圖案型紙つき
流行刺繍の獨習秘訣集
主婦之友二月號附録
(第二十四卷第二號)附錄

明色粉白粉

複合粒子でズバ拔けて美しく附く粉白粉

▲三重作用の最高級粉白粉

(1) 複合粒子でズバ拔けて美しく附く！

明色粉白粉は充分に細い白粉の粒子に、更に幾多の物理的化學的の新研究を加へて、複合粒子といふ一種特別の微妙な精巧な狀態に化成してありますから、普通の粉白粉とは比較にならぬ程美しく附きます。

(2) 時間がたつ程一層美しさを增す！

明色粉白粉をつけますと、獨特の科學的成分が忽ち皮膚に作用して皮膚が白粉の最もつき易い狀態になり、複合粒子の作用と合してマルでキヂからの樣な美しさに附き、而も時間がたつ程一層美しさを增します。

(3) 美容粒子の作用！

明色粉白粉には獨特の美容粒子が最も科學的に精巧に配合されてありますから、この粉白粉でお化粧するとキヂまでが目に見えて美しくなるのです。

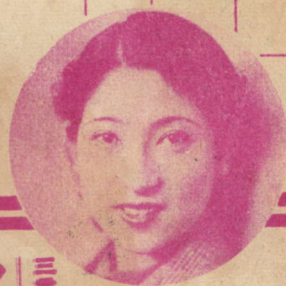
▲最高級の粉白粉が普通品のお値段

新標準の七色

肌色系統	
肌色	（肌色一號）
サンビーム	（肌色二號）
ラツシエル	（肌色三號）

オークル系統	
オークル	（オークル一號）
クリーム	（オークル二號）

白色	（ホワイト）
アンバー	（琥珀色）

定價各色四十二錢

肌アレにクリンシンの三重作用が大評判

定價七十八錢

三重作用でアレ知らずの美肌をつくる

普通クリームの二三倍は御德用！

(1) アレた肌を先づ清掃する

明色クリンシンは一寸すりこんで拭きとるだけで、毛穴の中の汚れまで吸着して、肌をシンから綺麗にします。

(2) 同時に獨特の美肌作用！

同時に獨特の綜合美容成分が肌の深部に滲透します。毛穴の中まで清潔になつてゐますから、美容成分が最深部迄行き渡り、思ふ存分作用をします。

(3) 其儘で化粧下！

お顔の場合ですと、明色クリンシンで拭いた皮膚は右の二作用の他に、皮膚自體が白粉の一番つきよい狀態に整ひますから、その上にスグ白粉をつけますとトテも美しいツヤのあるお化粧が出來、それが同時に最も有效な美肌法にもなるため、お化粧で肌が荒れる心配は絕對にありません。

クリンシンの世界的流行！

歐米に於てもクリンシンの流行は非常なもので、從來の凡ゆる洗顏料やクリーム類は既に時代おくれとなり、最近の統計によりましてもクリンシンの使用額は、あらゆる化粧品中の首位を占め、爲に歐米婦人の美が一段と増したとさへ言はれてゐます。

明色クリンシン クリーム

(4) 薬玉模様をリボン刺繍

流行の刺繍で生かした着物・コート・帯

(1) 日本刺繍のかたばみをあしらつた中年向の上品な帯　森多嘉子

(2) 新式のゴブラン繍で地紋を生かした若向半コート　森多嘉子

(松竹・三浦光子さん)

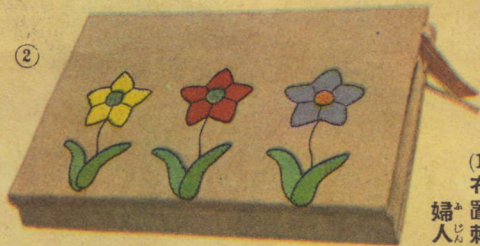
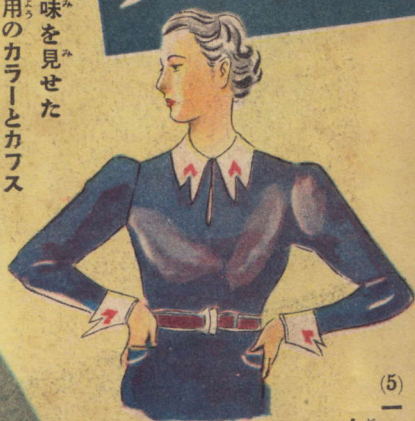
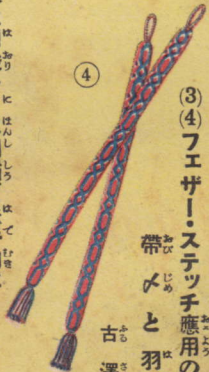
(3) 日本刺繍のふくら雀で地味な縞の着物を派手向に　森多嘉子

(松竹・高峰三枝子さん)

(4) 藥玉模樣をリボン刺繍であしらつた若向の帯　平山みよ子

(5) 布置刺繍で派手にした中年向の帯　加知茂

(1)(3)(4)の「實物大圖案」は別紙附録の(表面)に發表

(繍方は全部本文に發表)

流行刺繡應用の和洋服飾品
〔(7)以外の繡方は全部本文に發表〕
(1) 布置刺繡で新味を見せた婦人・女學生用のカラーとカフス
古澤美惠子
(2) 簡單な布置刺繡をあしらつた女學生向のモダンなハンドバッグ
有山綾子
(3) キャンバスに毛絲で刺繡した新型ハンドバッグ
古澤美惠子
(4) フランス刺繡で生かした婦人・女學生用のボレロ
荒川喜勢子
(5) 一つの圖案をお揃ひに刺繡した女學生用のボレロ、マフラー、手提、手袋
菅藤節子
(2)(4)(5)の「實物大圖案」は別紙附錄の(表面)に發表
(6) 簡單な刺繡で生かした男子用ネクタイ
柴田たけ子
絽刺の絲でダーニングステッチ(ぐし縫)した新味なもの
(7) ヘインテックスで派手にした若向ネクタイ
荒川喜勢子
(横山はるひさん)
(横山てるひさん)

(1)流行のリボン刺繡をあしらつたショール　梶谷蝶子

(2)地味な羽織を日本刺繡で派手向に　森多嘉子

(3)(4)フェザー・ステッチ應用の帶〆と羽織紐　古澤美惠子

(5)簡單な菅繡應用で花菱模樣をあしらつた若向の羽織　森多嘉子

（松竹・高峰三枝子さん）

(6)支那刺繡をあしらつた年輩向の趣味の帶　古澤美惠子

(1)(2)の「實物大圖案」は別紙附錄の(表面)に發表

（繡方は全部本文に發表）

刺繡とペインテックス應用のハンドバッグと草履

(1)支那刺繡應用の
上品な若向のハンドバッグ
森　多嘉子

(2)(3)ペインテックスで簡單に描いた
新味なハンドバッグ二種
荒川喜勢子

(4)クロス・ステッチを山路模様
に刺したモダンなハンドバッグ
古澤美惠子

(5)クロス・ステッチ應用の
和服向ハンドバッグ
古澤美惠子

(6)リボン刺繡で繡った
風雅なハンドバッグ
平山みよ子

(7)の「實物大圖案」は別紙附錄の(表面)に發表

(7)ラシャに毛絲刺繡
をした若向草履
柴田たけ子

(8)ペインテックスで
描いた趣味の草履
片野　同

(橫山てるひさん)

〔(6)以外の繡方や描き方は全部本文に發表〕

實物大の圖案型紙つき

流行刺繍の獨習祕訣集

この附錄には、日本刺繍を初め、フランス刺繍、支那刺繍、布置刺繍、リボン刺繍、ペインテックスなどを應用した、和洋服飾に關するものばかりを集めました。

資源愛護の國策線に沿うて、着物でも帶でもコートでも、地味なものを派手にしたり、派手になつたものを地味にしたり、特に古物の再生に應用して頂きたい一册であります。

なほ、『これさへ心得ておけば、刺繍もペインテックスもお手のもの。』となるだけの基礎知識を、ごく解り易く御紹介してありますから、初めてなさる方々には最もよい手引となりませう。別紙附錄表面の『實物大の圖案』と併せて、せいぐ〜御利用くださいませ。

日本刺繍の繡方とその應用

近代化された日本刺繍

贅澤のやうにいはれてゐた日本刺繍が、今では趣味はもとより、再生法に好適なものとして、昔ながらの獨特の高尚な味に、更に近代的な圖案と配色とを採り入れて流行つてまゐりました。

日本刺繍は、技術もほかの刺繍に比べて一番むづかしいとされてゐますが、練習次第でどん〜上達しますから、やり始めると何にでもしてみたくなるほど樂しみなものです。

次に日本刺繍をするうへに大切な心得を一通り御紹介いたしませう。

日本刺繍に大切な配色の注意

調和といふことは、何の場合でも大切ですが、日本刺繍の配色の場合は、殊にこの注意が必要です。第一に落着のある色を選ぶこと、それにはまづ刺繍をする布地の色を、淡い色か濃い色のどちらかにすることが大切で、中間の色は刺繍絲の選び方に困りますし、苦勞したほど刺繍も引立たなくなります。

刺繍を引立たせるのには、極端すぎない程度の反對色を使ふことが一番よく、濃い地色のものには主に淡色を使ひ、淡い地色の場合には濃い色を配色に使ふと非常に效果的です。

便利な用具と材料一揃ひ

日本刺繍用の刺繍臺、日本刺繍の鋏、(尖のよく切れるもの。)目打、胡粉、美濃紙、面相、駒、(二つで一駒といふ。)刺繍針、(臺針、天太、常太、絲八)刺繍絲(釜絲、金銀絲)など。

臺に布を張るときの注意

着物の美容仕立と同樣、橫の布目が曲つてゐるとよい刺繍はできませんし、すぐ狂つてしまひますから、橫の布目は必ず正しくして、縱を充分にぴーんと張ります。絲掛をするとき、橫はあまり張らぬこ

流行刺繍の獨習祕訣集(目次)

刺繍で衣類を更生する講習會

★詳細は本誌三七一頁を御覽ください。

と。絲は木綿物の場合は、木綿絲二本を使ひ、絹物の場合は、白の釜絲を二本一本に縒り合せて、それを二本絲にして使ひ、針は臺針を使ひます。

下繪の寫し方

美濃紙か丈夫な日本紙に下繪を鉛筆で描きましたなら、もう一度墨で繪取り、胡粉を水で繪具のやうに溶いて、裏からその線通りに描き寫します。この胡粉で描いた方を布の表の上に徐かにおいて、(亂暴に取扱ふと、胡粉が脱れる虞れがある。)鋏の峯で、ずれぬやうに擦つて寫し、その上をもう一度はつきりと描き上げます。(この場合、あまり濃い胡粉で太く描きますと、刺繍の外に出て落ちないことがありますから御注意ください。)これを裏摺法といつて、胡粉の代りに白粉を使ふ方がありますが、あとで落ちが惡いのでお奬めはできません。なほ、澁紙に下繪の彫つてある型紙は、粉のまゝの胡粉を日本刺繍用の小刷毛につけて上から擦つて寫します。

繍絲の縒り方

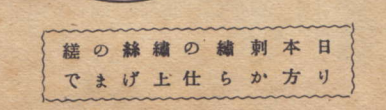
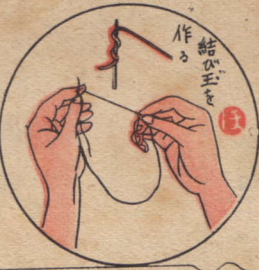
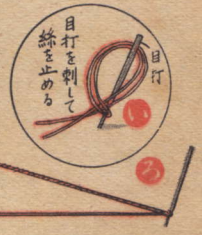
絲の縒り方は、慣れないと縒が綺麗に揃はないので、なか／＼手際のいる仕事です。自分の縒り癖を早く吞み込んでしまふことが上達への早道です。

まづ目打を刺繍臺の孔なり、壘に刺して、(い)のやうに絲をかけて止め、一方は口に啣へてぴんと張つておき、一方の絲を(ろ)のやうに片方に六七回下縒をかけて、もう一方も同じに下縒をかけます。この場合、二本の縒の強さが同じでなければ、綺麗な縒絲はできません。次に二本を一緒に合せて、(は)のやうに下縒と反對に上縒をかけます。縒の強さは人によつて違ひますが、大體下縒の半分くらゐで丁度よいでせう。この方向の縒り方を右縒といつて、主にこれを使ひます。

釜絲(平絲)は、平絲のまゝ使ふときと、縒つて使ふ場合とありますが、平絲は毛羽立ち易いので、縒絲を多く使ひます。釜絲は、普通六菅から八菅に分れて、一菅と一菅とを縒り合せたものを一菅合せといひ、釜絲一本を半分にして縒り合せたものを割合せ、釜絲一本と一本とを縒り合せたものを二本一本といひます。(あとはこれに準ず。)

(に)は蛇腹縒または桂縒といひ、縒るときに一方を多く、一方を少く分けて、多い方に下縒をできるだけ多くかけます。(三十回くらゐ)次に少い方の絲は縒をかけないで、そのまゝ弛めて一緒に縒り合せると、ぎざ／＼の絲が縒り上ります。(絲を分ける割合は、釜絲三本のうちを三菅とつて縒り合せたものを三本三菅の蛇腹といひ、あとはこれに準ず。)

日本刺繍の繍絲の縒り方から仕上げまで

日本刺繍の針と絲の釣合

臺針‥臺に布を張るときに使ふ針。
天太‥三本一本以上の絲で刺繍するときに使ふ針。
常太‥二本一本、一二掛の縒金銀絲で刺繍するときに使ふ針。
絲八‥一菅合せ、二菅合せ、一二掛の金銀絲で刺繍するときに使ふ針。

日本刺繍の針はこのほかにもありますが、この四本で一通りのものは繍ふことができます。

基礎になる運針法

(ほ)のやうにして結び玉を作つて、右手を臺の上に、左手を臺の下にして、左手で下から針を出し、右手で拔いて、(へ)のやうな手つきで繍ひます。こ

の要領で、早く繍ふことを練習しませう。日本刺繍は、フランス刺繍のやうに掬つて繍ふといふことはしません。繍ひ始めは(と)のやうに小針に二針繍ひます。絲を繼ぐときや、繍ひ終りも、同じやうに二針繍つて、上に針を拔いて絲を切ります。日本刺繍は、表に結び玉はつけません。繍つていつて絲の縒の戻つたときは、縒をかけながら繍ふことも、綺麗な刺繍をするうへに忘れてはならないことです。

日本刺繍に大切な仕上げ

何をしても仕上げといふことは大切ですが、臺にぴんと張る日本刺繍の場合は、殊更に大切です。

まづ、繍ひ落しがないかどうかを檢べたなら、裏から尺度で輕く叩くか爪で彈いて埃を浮き立たせ、天鵞絨の刺繍用の小蒲團か端布で、表に浮き出た胡粉や埃をすつかり拂つておきます。次に大和糊を左の掌に取つて、水と半々に混ぜ、(ち)のやうに右手の食指に糊を少しつけて、左の掌の上でよく煉り合せ、布裏から刺繍の部分へ萬遍なく塗りますが、糊が多すぎると表に滲み出ますから、多くつけないことゝ、刺繍以外の地布に糊がつかぬやうに注意します。糊がすつかり乾きましたなら、表を上面にして、(り)のやうに鏝を濡手拭に包んで刺繍の部分に近づけ、鏝を動かしながら湯氣を當てゝ湯通しをします。

濕り氣がすつかり除れましたら臺から外して、地布の幅が元の幅と同じ寸法になるまで、いまと同じ方法なり、または藥罐の湯氣で、刺繍以外の地布の湯通しをします。先に刺繍の部分にだけ湯通しをしておきませんと、刺繍が狂ふことがありますから御注意ください。

以上の方法は、縮緬物などの幅の伸び易い布地の仕上げ法ですが、割に地厚物で伸びない布地の仕上げは、萬遍なく糊(水で割らない。)をつけたら、刺繍の部分へ表に紙を當てゝ鏝をかけ、糊がすつかり乾いたなら臺から外します。これで完全な仕上げができたわけです。

應用の廣い基礎繍

日本刺繍は種類が少いので、次の基礎繍の方法を知つてゐれば、この附錄の日本刺繍は容易に繍ふことができますし、何にでも應用自在です。

▲菅繍＝横の布目通りに繍ふことで、地引ともいひます。(ぬ)で御覽のやうに、横の布目通りに絲を渡して、一目おきとか二目おきとかに間を明けて繍つてゆき、その上を共絲の一菅合せで一分(四粍)おきくらゐに目立たぬやう互ひ違ひに押へます。

(る)はつぎ針といつて、別絲にするとか、ぼかしにする場合の方法で、針を入れた孔から、次の針を出して繍ひます。

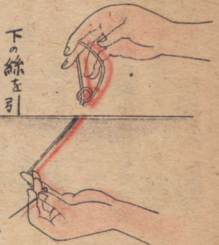
▲平絲繍＝平繍ともいひます。布目通りと限らずに(を)のやうに模樣を繍ひつぶす方法で、目打を使つて、絲を平に整へながら繍ひます。

▲菱掛＝(わ)のやうに、平絲で横に繍ひましたら、共絲の一菅合せで斜の格子をかけて、その交叉點をやはり一菅合せの共絲(圖は解りよくするため、絲の太さを變へました。)で、平絲繍と同じやうに横に止めてゆく方法です。(か)は二掛の縒金絲で斜の格子をかけて、それを十文字に止めました。

▲繍切＝(よ)のやうに、布目通りと限らず、縱でも横でも斜でも繍ひ埋めてゆく方法です。

▲切押へ＝切押へは、大きく繍切をしたときに、(た)のやうに、一菅合せで繍絲三本づゝを押へてゆく方法で、五分(一糎五)以上のものには切押へをしませんと、見た眼にも間が拔けるし、保ちも惡いのです。切押へは三分(一糎)よりは大きくしないこと、二段目、三段目からは、前段の切押への絲の四分の一返つて押へます。

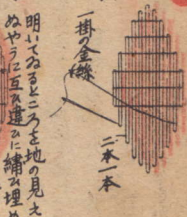
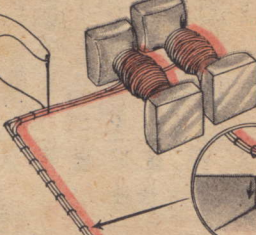
▲まつひ繍＝フランス刺繍のアウトライン・ステッチと同樣で、細い線を繍ふ場合、このまつひ繍をします。右から左に繍ひ下げたものを右針、左から右に繍ひ下げたものを左針といひます。(れ)を參照。

▲相良繍＝これも、フランス刺繍のフレンチ・ナッツと同樣に、結び玉を作つてゆく方法で、まづ裏から表に絲を拔き、(そ)のやうに、『の』の字の反對に絲の輪を作つて、その輪に針をくゞらせ、拔いたす

『日本刺繍の基礎繍方』(その一)

ぐ傍に針を入れ、右手で絲の調節をしながら、下の絲を左手で引きますと、可愛らしい結び玉が出來上ります。この相良繍は、下の絲を引きながら上で調子をとる、このちよつとの祕訣で結び玉が綺麗に揃ふかどうかゞ定りますから、充分に練習をしてくださいませ。

▲ゴブラン繍＝ゴブラン繍は(つ)のやうに、まづ縱に繍絲一本分だけ明けて繍ひましたら、次に一分五厘(六ミリ)弱の間を明けて一掛の金絲か、釜絲二菅合せで横に渡して、こんどは、初めに縱に繍つたと同じ絲で、明いてゐるところをなるべく布地が透かぬやうに互ひ違ひに繍ひ埋めてゆく方法です。

▲むしろ繍＝(ね)のやうに、まづ繍絲が横に一本分だけ入るくらゐ明けて繍ひましたら、一掛の金絲か、釜絲二菅合せで二分(八ミリ)ほどの間隔に絲を縱に渡して繍ひ、こんどは明けてあるところを、最初に横に渡したと同じ絲で横に繍ひ、縱に渡したと同じ絲で、二分の間を返し針で止めておきます。

▲駒綴＝駒一つを半駒といひ、二つを一駒といひます。駒綴の方法は、一駒の金絲なり銀絲なりを揃へて、一分(四ミリ)おきくらゐに、金絲なら黄色、銀絲なら白の一菅合せでとぢてゆきます。派手にする場合は綴絲に赤の一菅合せを使ひます。

このほかに蛇腹絲と金銀絲、或は半駒で綴をする場合もあります。駒綴は、直線なら二本が眞直になり、角は(な)の方法で恰好よく角を作つて、初めの餘分の絲は、二本一本を輪にして針に通し、圓內のやうに裏に引き拔きます。

▲匹田繍＝平絲で横に繍ひましたら、二本一本で斜の格子をかけて、(ら)のやうにその交叉點をやはり横に三度繍ひ止めて、その中に相良繍をします。これは丁度匹田絞のやうに見える繍方ですから、平絲繍を淡色に、格子と相良は濃い色にします。

▲花の匂ひ＝一掛の金絲か銀絲で(む)のやうに絲を渡して、その中央(まとめの元)を二回繍ひ止めます。匂ひの先には、二本一本でけし繍(返し繍)か相良繍をつけます。

これだけがよくお解りになりましたら、あとは實際に應用したものを次に御紹介いたしませう。新品にも再生品にも、どうぞ腕を揮つて應用なさつてくださいませ。

下繪の寫し方から繍方、仕上げに至るまでの方法は、すべてこの基礎を應用して頂きますから、一々申上げないことにします。

帯や着物などに向くかたばみの繍方

劍かたばみと、その劍をとつたかたばみの圖案とを別の紙に寫し取つて、それを擴大して下繪を寫します。

▲刺繍の材料＝白の釜絲二巻、えんじ、黒、黄、淡いローズ色などの釜絲を各一巻づゝと、一掛の金絲と、縒金絲、二掛の縒金絲と、六掛の金絲を各一把づゝと、駒綴の絲を使ひます。お持合せの絲で、配色よくお繍ひくださいませ。

▲繍方＝記入の番號と對照して、まづお太鼓から先にお繍ひください。

劍かたばみ：眞中から外側へと繍つてゆきます。まづ(1)は一掛の縒金絲、(2)と(3)はえんじの二本一本で横に繍切して、その上を、(1)は一掛の金絲で、(2)と(3)は共色の一菅合せで切押へをしておきます。(4)は、白の釜絲二本で横に繍切をして、えんじの二本一本で匹田繍をし、(5)は、黒の二本一本で横に繍切をして、切押へをします。これで大體の形ができましたから、周圍を次の方法で繍つて形を整へます。(1)の周圍は、六掛の金絲一駒で一廻り駒綴をして、(2)の周圍は、同じやうに三廻り駒綴をします。綴絲は黄色。(6)は、六掛の金絲とえんじ色の釜絲一本の蛇腹縒で、駒綴をします。綴絲はえんじの二菅合せ。(7)は二掛の縒金と、黒の釜絲一本の蛇腹縒で、黒の二菅合せでとぢます。

かたばみ：一つのかたばみは、心になる(1)(2)を一緒にして、えんじ色で横に繍切をして、その上を切押へしましたら、その廻りを、六掛の金絲一駒で一廻り駒綴をします。あとは駒綴法を參照して、金絲のかたばみを作ります。もう一つのかたばみは、心になる(1)(2)をやはり一緒にして、黒の二本一本で横に繍切にし、それを切押へしましたら、かたばみの花の中の劍を除いて、黄色の二本一本で横に繍切をして、二掛の縒金で十文字の菱掛をします。最後に、(2)と(3)と外廻りを六掛の金絲一駒で駒綴をして出來上ります。

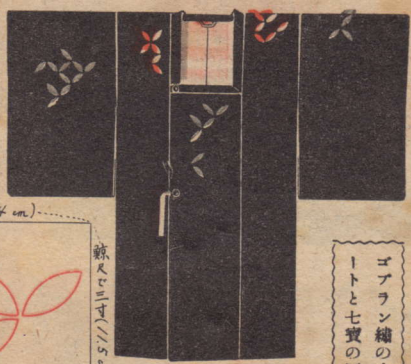
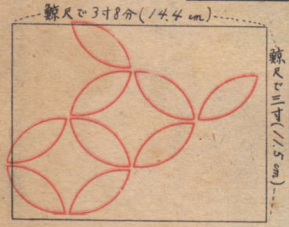
鯨尺で4寸6分(17.4cm)

幅と同寸

かたばみをあしらつた
帶とかたばみの繍方

(かたばみの駒とぢ)

初めは輪郭を一廻り駒とぢして あとは半分づゝ駒とぢをします

六掛の金絲一駒

かうしてお太鼓の刺繍ができたら、前模様にはかたばみを二つ、垂には織出しを金絲一駒で一筋に入れて、かたばみを淡いローズ色で半模様繍ひます。

▲**應用**‖小さくして飛ばせば、中年向の帶にも、羽織や長着にも上品でせうし、クッションに、大きく一つ配置したのも上品なものです。

新刺繍のゴブラン繍を應用した
若向半コート

▲**刺繍の材料**‖えんじとクリーム色の釜絲を二巻づゝと、一掛の金絲一把。

▲**繍方**‖口繪一頁寫眞(1)の三浦光子さんが召された半コートは、黒に染めて、七寶の地紋を利用して、配色よくゴブラン繍にし、模様の周圍は凸凹になつてゐますから、共絲の二本一本で右針のまつひ繍にしました。地紋を生かして繍つたために、案外氣がきいて上品なものが出來上りました。配置と配色は、口繪寫眞を御參照ください。

ゴブラン繍の半コートと七寶の圖案

鯨尺で3寸8分(14.4cm)

鯨尺で三寸(11.5cm)

▲**應用**‖そのまゝでも、または大小の變化をつけて、羽織にも、長着にも、帶にも、なほ若向、中年向と自由に使へる圖案です。ほかの圖案と組み合せて、線だけをまつひ繍にしても面白いものができますから、せいぐ〜利用してくださいませ。

羽織や着物に向く
花菱模様の繍方

口繪三頁寫眞(5)で高峰三枝子さんが召された花菱模様の羽織は、色が褪せて着られなくなつたものを黒に染めてみましたが、そのまゝでは着られませんので、簡單な菅繍で再生させたものです。

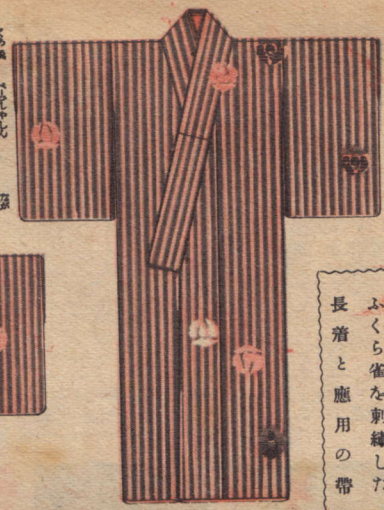
▲**刺繍の材料**‖えんじとブルーとクリーム色の釜絲を各二巻と、二掛の縒金銀絲、白と黄の駒綴絲。

▲**繍方**‖普通の菅繍では單純すぎましたので、三厘(一ミリ)と一分(四ミリ)くらゐの、幅の狹いところと廣いところとの間隔の變化をつけて、ところ〴〵に金銀絲を配色よくつぎ針で入れましたのが、大そう效果的に映えました。圖案は花菱の圖案を、配置と配色は口繪寫眞と出來上りの羽織を御參照ください。

花菱模様を繍つた羽織と圖案と應用の帶

▲**應用**‖應用の帶は、花菱を四つ繋いだものです

が、これなど變化があつて面白いでせう。そのほか花瓣一つでも、或はもつと圖案化させても趣がありますし、長着や、小さな花菱繼ぎにして草履表にも應用してごらんなさいませ。

何にでも應用できる ふくら雀の刺繍の仕方

ふくら雀を刺繍した長着と應用の帶

口繪一頁寫眞(3)の長着を御覧くださいませ。圖案の配置と配色は、長着の場合殊にむづかしいもので、折角刺繍をしましても着たときに隱れてしまつたのでは勿體ないですから、美容上、肩と胸と前とに出すことにして、圖の位置にあしらひました。

別紙附錄の表面(1)の實物大圖案を利用して、いろいろなものに應用なさいませ。

▲刺繍の材料＝流行色の青綠色と牡丹色とクリーム色の、それぐ\濃淡を三卷づゝと、一掛の金絲二把、二掛の縒金絲少々を使ひましたが、布地の縞や色によつて、お選びください。

▲繡方＝可愛らしいふくら雀を、ぽつてりとゴブラン繡で繡ひましたのが、とても新鮮なモダンな感じになつて效果的でした。配色は、頭と尾とを同色に、胴と羽とを同色にして、周圍がぎざぐ\ならぬやう形を整へてお繡ひくださいませ。眼は一掛の金絲で丸くまつひ繡にし、嘴は二掛の縒金絲で横に繡切にしました。

▲應用＝四季を通じて使はれるふくら雀の圖案は、大へん應用の廣いもので、帶は大小のふくら雀を面白く配置して繡つたものですが、これなど新味がありませう。

なほこのほかに、羽織にも、ハンドバッグにも、またほかのものと組み合せても使へる、重寶な圖案です。

圖案化した獅子の紋を繡切で刺繍した羽織

圖案化した獅子の紋を刺繍した羽織と擴大した獅子の紋

口繪三頁(2)の高峰三枝子さんが召してゐられる羽織です。

▲刺繍の材料＝刺繍絲は煉瓦色の濃淡と、水色の釜絲を一卷づゝ。

▲繡方＝時節柄、金銀絲を使はずに、釜絲だけで繡つた落着いたものです。繡方は簡單な繡切で、繡方の方向は、擴大した獅子の紋を御參照ください。

▲應用＝長着にしても、牡丹の花をあしらつて帶にしても、面白い圖案です。

この要領でいろ／＼に工夫しますと、既製品に見られぬ趣のあるものができませう。刺繍をあしらふものにうつりのよい圖案と配色を上手に選ぶことが大切です。（以上 森多嘉子）

フランス刺繍の繍方とその應用

便利な用具一揃ひ

毛織物や麻布などに刺す場合は必要でありませんが、薄手の布地には丸枠を使ひます。丸枠には、五分（一糎）幅くらゐの長い布を巻いて使ふと、嵌り工合がよく、布地を損めるやうなこともないのでよろしいのです。

圖案の轉寫に鉛筆か炭酸紙、布地によつてはスタンプインクを使ひます。フランス刺繍針、先のよく切れる鋏など。

圖案の描き方

別紙附錄の表面のやうな實物大圖案を使ふときは、パラフィン紙か丈夫な日本紙、または模造紙などに、その圖案を鉛筆で寫しとりますが、もし圖案が縮小されたものでしたら、實物大に擴大したものを鉛筆で描いて使ひます。

布へ下繪を寫す方法は、次の三通りあります。圖案紙を使はずに鉛筆で好きな圖案を直接に描く場合、表を上面にした布の上へ炭酸紙（上等のものを使ふ。）を載せ、炭酸紙の上に實物大の圖案を描いた紙を更に重ねて、圖案の線通りを鉛筆でなぞる場合と、圖案紙に針の先で五厘（一ミリ）おきくらゐに圖案の線通りぷつ〳〵と孔を明け、布の表を上面にした上に載せて、スタンプインクを刷毛（メリンスの小布を丸めて使つてもよい。）で孔から布に浸み込ませる場合とがあります。

內職などに同じものを何枚も作るやうなときは、スタンプインクを使ふ方法が一番よく、普通は線描した圖案紙を下にして、硝子窓のやうなところで鉛筆で寫しとるのが手輕でせう。

【應用の廣いフランス刺繍の基礎繍】

（い）（バック・ステッチ）
（ろ）（アウトライン・ステッチ）
（は）（フラット・ステッチ）
（に）（スローピング・ステッチ）
（ほ）（サテン・ステッチ）
（へ）（レージーデージ・ステッチ）
（と）（ロングエンドショート・ステッチ）
（ち）（チェーン・ステッチ）
（り）（フレンチ・ナッツ）
（ぬ）（ブランケット・ステッチ）
（る）（フェザー・ステッチ）
（を）（シャドウ・ステッチ）
（裏側）
（わ）（クロス・ステッチ）
（裏側）

應用の廣い基礎繍

▲**バック・ステッチ（返し繍）**＝和裁の返し縫と全く同じ刺し方で、直線や曲線を表す場合に使ひます。（い）を參照。

▲**アウトライン・ステッチ（線繍）**＝直線や曲線などの輪郭になる線を繍ふのに主に用ひられ、莖や枝なども殆どこの繍方です。（ろ）のやうに下繪の上を掬つて、針先を前の絲の根元から出します。

▲**フラット・ステッチ（平繍）**＝（は）のやうに、葉でも花瓣でも、縱または橫に刺します。同じ刺し方で斜にすれば、スローピング・ステッチになります。

▲**スローピング・ステッチ（斜繍）**＝主に葉に應用されてゐる繍方で、運針の方法はフラット・ステッチと同じです。（に）を參照。

▲**サテン・ステッチ（心入りの平繍）**＝出來上つた形は、フラット・ステッチやスローピング・ステッチと同樣ですが、これは（ほ）のやうに、心を入れてふつくりさせたものです。

▲**レージーデージ・ステッチ（雛菊繍）**＝（へ）のやうに、できた形が雛菊に似てゐるところから、この名前が出たもので、花や葉を繍ふときよく使はれます。この繍方は絲の引締め方が大切で、引きすぎ

ると下繪の線が覗きますから、充分御注意くださいませ。

▲**ロングエンドショート・ステッチ（長短繡）**＝長短繡と呼ばれる名の通り、長短の針脚で繡ふ方法で、（と）のやうに、主に花または葉の周圍に用ひられます。

▲**チェーン・ステッチ（鎖繡）**＝（ち）のやうに、鎖の形にできる繡方で、一本の線として割合廣く使はれてゐます。

▲**フレンチ・ナッツ（結び玉繡）**＝日本刺繡の相良繡と同じ刺し方で、花の心は大てい、このフレンチ・ナッツです。左手で絲を押へておいて、針にくるつと一巻かけ、（二巻することもある。）抜き出してある絲の根元に針を刺し込み、左手で引絲を加減しながら（り）のやうに作ります。

▲**ブランケット・ステッチ（毛布の縁繡）**＝毛布の縁のほつれ止に用ひられてゐる方法です。針と針の間隔、針脚を揃へることが大切で、縁廻り、木の葉、花瓣の輪郭を刺すのに向きます。（ぬ）を參照。

▲**フェザー・ステッチ（千鳥繡）**＝この繡方は、コスモスの葉などに使はれます。不揃ひにならぬやう、絲の引き方に御注意ください。（る）を參照。

▲**クロス・ステッチ（十字繡）**＝キャンバス地か麻布のやうな布目のごく粗いものに、布目を拾つて刺す場合に多く用ひられる方法で、應用範圍の廣いものです。

（わ）の（１）から番號順に針を通すと、斜になつて上に進みますから、必要なところまで刺したなら、×になるやうに揃つて戻ります。左上の角から右下角に渡る絲が上になる方が正しく、裏は圖のやうに、一文字になります。

▲**シャドウ・ステッチ（陰繡）**＝一名をターキッシ・クロス・ステッチ（土耳古式十字繡）ともいひ、十字繡の變化したものです。（を）の（１）から番號順に刺してゆく方法で、裏面は圖で御覽のやうに、兩端がバック・ステッチとなります。この繡方は裏表とも用ひられます。

ぬひ始めとぬひ終りの注意

ぬひ始めの返し繡

まづ、結び玉の作り方について申上げませう。普通は食指の先をちよつと舐めて、（い）のやうにして結び玉を作りますが、かうすると指にかゝつた部分の絲が汚れて、折角の刺繡も綺麗にできませんから、日本刺繡の基礎繡のところで申してある要領で作ります。

ぬひ始めもぬひ終りも、結び玉のごろ〳〵することは禁物で、（ろ）のやうに、ぬひ始めは下繪から三分（一糎）ほど離れたところで、裏からでなく表から針を刺して、下繪の上へ抜き、まづ小さく返し繡します。このとき、針は必ず絲を割つて抜き、次からは普通に刺繡します。結び玉はあとで切り除りますが、絲を割つてあるため、ほつれるやうなことは絶對にありません。

ぬひ終りは、やはり小さく返し繡して止め、（結び玉は作らない。）絲端をぶら〳〵させておくのは禁物ですから、裏側で繡目の間へくゞらせます。

上手な仕上げの方法

布裏を上面にして、折りたゝんだ毛布か、あまり厚くない座蒲團の上に載せ、固く搾つた濡手拭を當てた上から、熱いアイロンを刺繡の目をつぶさぬやうにしてかけます。枠に張つたものは枠のあとが殘りますから、湯伸しをして、熱いアイロンを布裏から當てます。

但し、天鵞絨に限り、丸枠のあとの消えるまで湯伸しをかけたら、アイロンは當てずに、乾かしてしまひます。アイロンを當てると毛が寢て醜くなつてしまひます。

洗濯するときの注意

フランス刺繡のものは、どちらかといへばよく洗濯されますから、次のやうな注意が大切です。

じめ〳〵したお天氣の日はなるべく避け、からつと晴れた日を選ぶこと。長時間水に浸けておいたりごし〳〵擦つたりすることは禁物です。

洗ひ方は、まづマルセル石鹸を微溫湯に溶して、洗液をたつぷりにした中に入れ、刺繡の部分を揉まないやうに輕く摑み洗ひしましたなら、よく濯ぎ出して、搾らずに乾いた布の間に挾んで、水氣を充分吸ひとらせます。そして、風通しのよい日陰で乾かしますが、もし色の滲み出る虞れのあるものは、吊さずに平において乾かし、生乾きのうちに熱いアイロンを裏から當てます。

刺繡絲のよいものは、洗へば洗ふほど艶が出てきますが、悪いものになると、すぐ毛羽立つて醜くなりますから、刺繡絲を選ぶとき、この點に充分御注意くださいませ。

ボレロやエプロン、ベルトに向く フランス刺繡の石榴の繡方

別紙附錄表面（５）の實物大圖案と、口繪二頁寫眞（４）のボレロを御覽くださいませ。

女學生用にしては地味な鼠色一色のボレロを、簡單なフランス刺繡で流行のものにいたしました。こ

（ボレロ）

（ベルト）

（洋服用エプロン）

『フランス刺繡の石榴をあしらつたボレロ、エプロン、ベルト』

のまゝの圖案で、洋服用のエプロンにもサロンエプロンなどにも應用できますし、また一部分づゝをとつてベルトに刺せば、圖のやうに新味なものができませう。

▲材料と用具‖　フランス刺繡用の五番（太絲）を、配色は圖に記入のやうにしました。ほかに刺繡針と圖案の轉寫に炭酸紙を用意します。

▲繡方‖　圖案の寫し方は、前々頁を御參照くださいませ。實物大の圖案を御覽になれば大體の刺し方もお解りになると思ひますが、莖と枝は無論、そのほかの部分でも、莖と同じ線になつてゐるところはすべてアウトライン・ステッチ、點線の部分はバック・ステッチ、花や葉にフラット・ステッチやスローピング・ステッチなどを應用したものです。

繡方は、基礎繡を御參照ください。（荒川喜勢子）

ボレロ、マフラー、手提に應用した　フランス刺繡の花の繡方

口繪二頁寫眞（5）のボレロ、マフラー、手提、帽子、手袋にあしらつてある刺繡は、別紙附錄の表面（7）の圖案を、それぐ\應用したものです。女學生向の見るからに可愛い花で、手袋には小さい花だけをあしらひました。

▲材料と用具‖　刺繡絲は、フランス刺繡絲の五番（太絲）、配色は紺のサージに合ふやうに、記入のやうに取り合せました。ほかに刺繡針、下繪を寫す炭酸紙など。

▲繡方‖　枝はアウトライン・ステッチ、花はロングエンドショート・ステッチとフラット・ステッチ、花の心にフレンチ・ナッツ、葉はスローピング・ステッチの應用です。

別項のフランス刺繡の基礎繡と對照して御覽になれば、初めての方にもたやすくおできになりませう。

花は初めに外側を刺し、最後に心を入れます。（齋藤節子）

『お揃ひの刺繡をあしらつたボレロ、帽子、手提、マフラー、手袋』

草履やハンドバッグに向く花散し模様の繍方

口繪四頁寫眞(7)の草履にあしらつてある花散し模様の刺繍は、別紙附錄表面(2)の圖案です。このまゝの圖案を、ハンドバッグなりクッションなりに應用しても、新味なものができます。

▲材料と用具＝ 草履は、ラシャに極細毛絲で刺したもので、配色は布地とうつりのよいやうに、線を青磁色にして、花を淡紅色とえんじ、ローズ色にしました。ほかに刺繍針、炭酸紙など。

▲繍方＝ 圖案を炭酸紙で布に寫し、線は全部アウトライン・ステッチ、花はロングエンドショート・ステッチと、心にフラット・ステッチを應用しました。花の周圍をロングエンドショート・ステッチするとき、花瓣の境目は針脚を普通より少し長目にしておくと、一枚づゝの區切がはつきりします。(柴田たけ子)

(ハンドバッグ)　(クッション)　(草履)

同じ圖案を刺繍した草履、ハンドバッグ、クッション

クロス・ステッチ應用の二種のハンドバッグの繍方

口繪四頁寫眞(4)の菱形に花模様のハンドバッグは、麻布に二十五番(細絲)の刺繍絲二本どりで、また、(4)の方はキャンバス地に中細毛絲で、どちらもクロス・ステッチを應用したものです。

▲材料と用具＝ 菱形の方の刺繍絲は、寫眞と同じ配色にするとして、菱形に淡綠色、花に黄、濃淡の紫、鼠色、淡紅色、えんじ、ローズ色、オレンジ、紺色、水色です。口繪寫眞(4)のハンドバッグの配色は、〔二圖〕を御參照くださいませ。

▲菱形に花模様の繍方＝ 〔一圖〕(ろ)は、方眼紙の一目をクロス・ステッチ一目とした圖案で、初めに菱形を全部繍ひます。

クロス・ステッチの正しい刺し方は、基礎繍のところで申してありますが、こゝでは(は)のやうに、二目づゝを斜に刺してゆき、花は、花(黒丸の部分)と枝の配色を變へて新味を出しました。

なほ、花は斜に一列を上向きとし、次の一列は下向きに、その兩側は上向きと下向きを一つづゝ交互

(出来上り) い

(出来上り) に

ほ (圖案) 繰返す

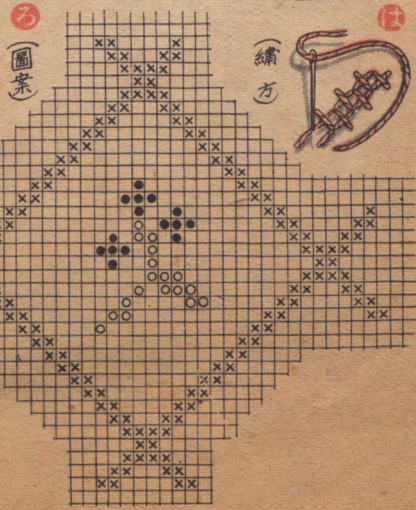
ろ (圖案)

は (繍方)

へ (繍方)

×…ピンク
◎…ラクダ色
メ…クリーム色
△…淡鼠色
●…濃鼠色
|…煉瓦色
○…若草色
＋…綠色
▲…濃綠色

〔一圖〕クロス・ステッチを應用した菱形に花模様のハンドバッグ

〔二圖〕『クロス・ステッチで山路模様に刺したハンドバッグ』

にしました。そして配色を上向きの一列は枝を黄にして、花を紫の濃淡を交互にし、下向きの一列は枝を鼠色にして、花を淡紅色、えんじ、ローズの三色交互に、上向きと下向きを交互にするときは、枝をオレンジ、花を紺と水色にしました。

▲新味な山路模様の繡方＝〔二圖〕（ほ）の、方眼紙の一目をクロス・ステッチ一目とした圖案を、御覧ください。

絲はなるべく切らないやうにし、（へ）のやうに、こゝでは一目づゝを仕上げながら淡紅色なら淡紅色を横に全部刺し、次にラクダ色、クリーム色と順々に、山路模様に刺したものです。

フェザー・ステッチ應用のハンドバッグと帶〆、羽織紐

口繪二頁寫眞（3）のハンドバッグと三頁寫眞（3）（4）の帶〆、羽織紐にあしらつた刺繡は、圖案も刺し方も同一のものですが、ハンドバッグはえんじと焦茶、オレンジの配色にし、並太毛絲で、帶〆と羽織紐はネクタイや蟇口用の孔絲でブルーとえんじの二色にしたためすつかり變つた感じです。

（ハンドバッグ）

（帶〆）

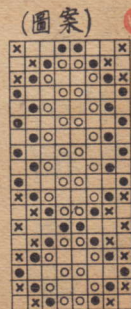
（羽織紐）

〔一圖〕『フェザー・ステッチ應用のハンドバッグと帶〆、羽織紐』

▲材料と用具＝布地はキャンバスがよく、ハンドバッグの方は、並太毛絲で刺しますから目の粗いのを、帶〆や羽織紐は目の細かいのを選びます。針は孔絲ならフランス刺繡針、太毛絲なら毛絲綴針、枠は使ひません。

▲繡方＝〔二圖〕（い）は圖案です。基礎縫に御紹介してあるフェザー・ステッチの應用で、初めに（い）の白丸を龜甲に刺しますが、これは、（ろ）（は）（に）（ほ）圖で御覧のやうに、二行に刺します。このとき一行は上から一行は下からといふのでなしに、二行とも上から繡ひ下げます。口繪寫眞を參照して、配色を適宜に加減しながら、白丸の部分を全部龜甲に刺し、次に×の位置に小形の龜甲を、上からそれぞれ繡ひつけます。大小の龜甲をすつかり繡つてから、えんじと焦茶を交互に、黑丸の位置へ刺繡しますが、この黑丸だけは下から上へと繡ひ上げました。（以上 古澤美惠子）

（い）（圖案）

（ろ）（は）（に）（ほ）

〔二圖〕キャンバスにフェザー・ステッチを應用して龜甲の模様の刺し方

○……綠または オレンジ
×……綠または オレンジ
●……エンジ または焦茶

支那刺繡の繡方とその應用

支那刺繡の配色

支那刺繡の特徴は第一に配色で、日本刺繡の落着いた色彩に比べて、どちらかといへば單調な原色をそのまゝ使つてあることです。

刺繡をあしらふ布地は、白か朱、または靑の支那繻子、或は支那緞子などが多く使はれ、刺繡絲は釜絲を使つて、配色は朱、黃、藍、綠、いゝ、うこん、綠靑、牡丹色、金絲（紫や銀絲は使ひません。）など、上等のものになると金絲の代りに漆絲を使ひます。

その特徴のある使ひ方は、繧繝に刺すことで、つまり日本刺繡なら一色で繡つてしまふところでも、支那刺繡の場合は、口繪四頁寫眞（1）のやうに濃淡を使つて段々に繡ひます。

支那刺繡は、強すぎるほどの、或は單調すぎるほどの原色が使つてあるのに、どうして厭味な感じがしないかと申しますと、次に御紹介する支那刺繡特有の圖案とよく調和してゐるからであります。

應用の廣い支那刺繡の圖案

第二の特徴である圖案は、四君子（梅、菊、蘭、

【應用の廣い支那刺繡の圖案】

竹)に因んだもの、そのほか、柳、牡丹、雲、波、鳥、岩、庭石などのものが多く、上等のものには人物なども使ひます。

支那刺繡の圖案は、應用範圍が廣く、主に壁掛、テーブルセンター、テーブルクロース、絨毯などに應用されてゐますが、圖案の一部分をとつて、長着や羽織、帯、ショール、草履、婦人子供服などにも使はれる重寶なものです。

次に何にでも使へる便利な圖案を、四種御紹介いたしましたから、新しいものにでも、再生品にでも應用なさいませ。

支那刺繡に多い三種の繡方

支那刺繡の繡方は、殆どゝいつてもいゝくらゐに相良繡、駒綴、刺し繡などです。圖案の寫し方や仕上げ法は、日本刺繡の方法と同じですから、御參照くださいませ。

【支那刺繡の刺し繡の方法】

(刺し繡)

(い)

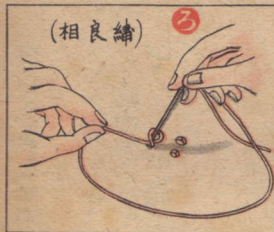
▲刺し繡＝フランス刺繡のロングエンドショートを何段も繰返して刺してゆく方法で、針脚に長短をつけて一段刺しましたなら、(い)のやうに次の段からは前段の針脚の三分の二返つて、その針脚の寸法だけ刺してゆきます。

刺し繡は、輪郭から中側へ、必ず針脚に長短をつけて刺します。

(相良繡)

(ろ)

『支那刺繡の相良繡の方法』

▲相良繡＝手先の器用な支那人の繡つた相良繡は、玉が揃つて綺麗なもので、日本刺繡の相良繡の方法とは絲の引き方が少し違ひます。『の』の字の反對の輪を作り、その輪に針をくゞらせてすぐ傍に針を入れるまでは、日本刺繡も支那刺繡も同じでありますが、そのあとを支那刺繡は、(ろ)のやうに左手で絲を引張つて、針にその輪をしつかりと巻き、針を下に拔いて作ります。

支那人は皆なこの方法で相良繡をします。日本刺繡の相良繡のやうに、特別の祕訣はいりませんが、玉を揃へることは皆な同じです。

▲駒綴＝日本刺繡の方法と同じですから、御參照くださいませ。

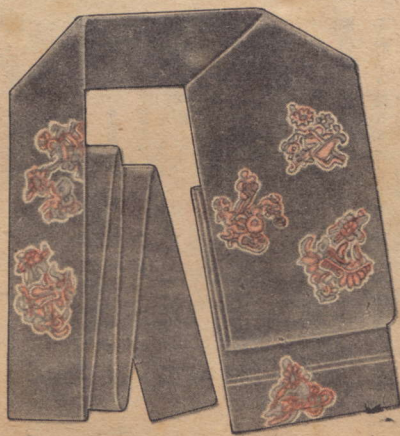
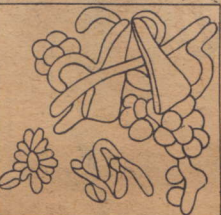
何にでも應用のきく圖案を相良つぶしで布置刺繡した帯

▲刺繡の材料＝口繪三頁寫眞(6)で御覧のやうにブルーの濃淡と、六掛の金絲と、駒綴絲とを使ひました。

▲繡方＝ブルーの濃淡を上手に使つて相良繡で繡ひ埋めたものを黑繻子の帯に布置刺繡して、周圍を六掛の金絲一駒で駒綴しました。

▲應用＝帯の中の一つの圖案を御紹介しておきましたから、ハンドバッグや、長着、羽織、ショールなどにも御利用くださいませ。

（古澤美惠子）

相良つぶしで布置刺繡した帯とその圖案

刺し繡と相良繡で波の圖案を繡つたハンドバッグ

鯨尺で三寸(11.5cm)、

鯨尺で5寸8分(22cm)

【支那刺繍の波の圖案】

▲**刺繍の材料**＝釜絲のブルー、朱、緑などのそれぐ\の濃淡と、白、六掛の金絲、駒綴絲を使ひました。

▲**繍方**＝口繪四頁寫眞(1)のハンドバッグを參照して、中央の波頭だけ相良で繍ひつぶし、ほかの部分は全部釜絲一本で刺し繍にして、輪郭を六掛の金絲一駒で駒綴をします。

▲**應用**＝　連綴させてテーブルクロースの周圍に、またはほかのものと組み合せて、壁掛などにも向きます。

▲**簡單な駒綴法**＝　一駒で駒綴をする方法は初めの基礎の項で申上げましたから、こゝでは半駒で駒綴をする場合の簡單な方法を、御紹介いたしませう。それは、駒綴をする絲を天太に通して、裏から駒綴の初めに絲を抜き、駒綴絲でとぢてゆくのです。

▲**絲の足りなくなつたとき**＝　一駒で駒綴をして絲の足りなくなつたときには、同じ場所で絲を切らずに、互ひ違ひに切りますと目立ちません。

（森多嘉子）

リボン刺繍の繍方とその應用

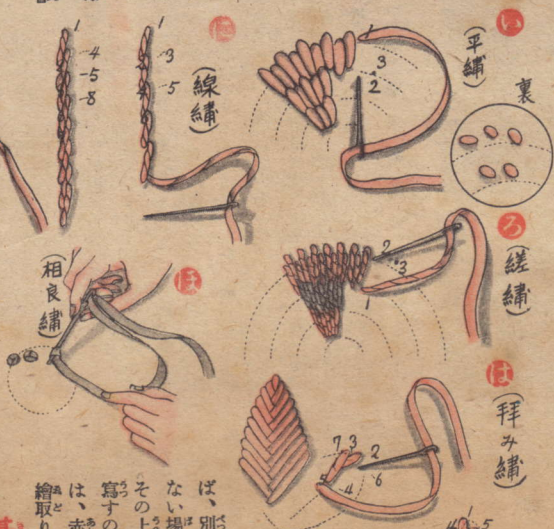
最近流行のリボン刺繍

一時影を潜めてゐたリボン刺繍が、近代的な感覺をもつて非常な勢ひで流行し始めてまゐりました。このリボン刺繍は、ほかのどの刺繍よりも簡單にできますから、少しも經驗のない方でも、この記事を御覽になれば面白いやうにおできになりませう。次に申上げた基礎を一通り覺えたうへで、新品にも再生品にもどしぐ\と應用してくださいませ。

▲**用途**＝　リボン刺繍をして最も效果の擧るのは帶、ハンドバッグ、子供の手提、草履、手袋、ショール、パラソル、クッションその他の室内裝飾品です。

着倦きたものをリボン刺繍で新しく再生するときは、まづ布地を強く張らないで、地質を損めないやうに繍ふことが大切です。地質がひどく損んでゐるものには、模樣のところだけに裏打ちすると丈夫になります。

刺繍用リボンと用具について

刺繍用のリボンは、繍ふものによつてお好みの色を適當にお選びください。刺繍臺は日本刺繍と同じ臺を用ひますが、簡單なものや小さいものに刺繍するときは丸枠でもよく、ほかに目打、針はフランス刺繍針のあまり太くない七號か八號が繍ひよいのです。下繪を布に寫すのには、胡粉か赤の炭酸紙を用意します。

布地について

リボン刺繍はどんな布にもできますが、たゞリボンの幅が絲よりは廣いので、布地もできるだけ丈夫なものを選びます。中でも、リボン刺繍に最もしつくりする布地は、繻子、羽二重、綸子、天鵞絨などです。

【リボン刺繍の基礎の繍方】

い（平繍）　裏

ろ（縒繍）

は（拜み繍）　裏

に（線繍）

ほ（相良繍）

圖案の寫し方

圖案の型紙があれば、別項の日本刺繍と同樣にします。型紙のない場合は好みの圖案を日本紙に墨で描き、その上に布をおいて胡粉を水溶きして圖案を寫すのですが、地厚物や色物で寫らない場合は、赤の炭酸紙を布の上におき、圖案通りに繪取ります。

基礎繍の種類

簡單な平繍や縒繍、(刺し繍ともいふ。)拜み繍、線繍、相良繍が基礎となつて、それをいろ〳〵に變化させます。

▲平繍＝(い)を御覽になつて、(1)の表に針を出し、(2)の裏へ拔いて、リボンの幅より心持ち狹い間をおいて(3)の表に出し、この番號順にリボンを平に並べて繍ひ進みます。平繍に限りませんが、絲をできるだけ經濟に使ふためと、厚くならないために、布裏で針を渡さず、裏圖のやうにすぐ隣に出して繍ひますが、模樣によつて輪郭を揃へてもよく、圖のやうに高低の差をつけても結構です。あまり丈の短いときは、裏にもリボンを渡して、日本刺繍の要領でお繍ひください。リボンが捩れたり不恰好にならないやう、目打で形を整へながら繍ひます。

この繍方は、花でも盛り上げないで、平にしたい場合に多く應用されます。

▲縒繍＝方法は平繍と全く同じですが、(ろ)のやうに、針を表へ出したなら、針を左卷にくる〳〵と廻してリボンを縒つて、(1)(2)の番號順に繍つてゆきます。リボンを裏へ引くときは、右手の拇指と中指で、いま一度縒りながら裏から左手で引くと、固く細い縒繍ができます。半縒程度でしたら、初めに弛く縒つただけでどん〳〵刺してゆきます。

▲拜み繍＝葉に多く用ひます。順序は(は)の左側の葉のやうに、まづ葉先の(1)の表から葉脈の中央(2)の裏へ拔いて、葉脈より少し離れた右側(3)の表へ出し、左葉先(4)の裏へ拔いて、裏側でリボンを横に渡して右葉先(5)の表へ出し、次は葉脈の右側(6)の裏へと拔き、この要領で繍ひ埋めてゆきますが、横廣がりになると形が惡くなります。

(は)の右側の葉のやうに小さい葉が途中からついてゐるときは、都合のよいところまで大きい葉を繍つてから、小さい葉に移りますが、すべてリボンを無駄にしないため、二つ目の葉は針を出す順序を圖のやうに變へても構ひません。葉に丸味のあるものは丸味に沿つて、葉の輪郭を揃へて繍ひますが、薔薇の葉のやうに棘のあるものは、とげ〳〵した感じを出すためわざと不揃ひに繍ひます。

▲線繍＝細い線や太い線を繍ふときの方法で、その線の太さによつて針の順序を(に)のやうに變へます。細線のときは重りを淺く、太線はもつと深く、曲線の內側は詰め加減にして外側を開きめに調節するなど、圖案によつて加減してお繍ひください。

▲相良繍＝(ほ)のやうに、日本刺繍の相良繍と同じ方法で花の心などに使ひます。大きめの相良にしたいときは針に二卷しますが、普通は一卷です。

リボン刺繍全體の注意

リボンは絲よりも幅のあるものだけに、針目も大きく明きますから、あまり間隔を詰めぬことです。絲で繍ふ場合よりも、針がどうしても通りにくいため、刺すときや引き拔くとき、自然に力を入れすぎますので、リボンの引き加減に氣をつけます。

ぼかしのところへ別色が縞のやうに並ぶと、大そう見苦しくなることも注意を要します。絲の繼ぎ方や後始末は日本刺繍と同じです。

若向の帯に應用した豪華な薬玉模様の繍方

口繪一頁寫眞(4)の帯は、別紙附錄の表面(4)の實物大圖案を利用したものです。この圖案はお目出度いものには何にでも應用のできるもので、私は出產祝に、この薬玉を派手な色にして白の綸子のちやんちやんこに繍つて差上げましたところ、大そう喜ばれました。この帯も古いものですが、目立たない地紋をそのまゝ應用した再生品なのです。

▲刺繍の材料＝刺繍用のリボンは年齡や好みによりますが、〔一圖〕の圖案にある(1)の花は、淡紅色のぼかしを一把半、(2)は藤色を一把、(3)は赤色一把、(4)はクリーム色のぼかしを一把、(5)は濃い桃色を一把、(6)は黃色を一把、(7)はえんじ色のぼかしを二把、眞中の櫻は桃色のぼかしを一把、葉は綠色のぼかしを一把、紐は以上のリボンの殘りを三把分ぐらゐ、匂ひには黃色一把、金絲少々。(これはお太鼓分だけ)用具は基礎繍の項を參照して御用意ください。

▲繍方＝圖案の(1)から(7)までの花の繍方を申上げますと、(1)は流れ相良繍といひ、〔二圖〕(い)のやうに何段かに分けて繍ふときは、下繪に大體の等分線を描き、それを目當として繍ふと失敗しません。繍方は表へ針を出して、少し離れたところへ相良繍をし、緣廻りの一段目をぐるりと繍つてから、二段目、三段目と中心へ埋めてゆきます。

(2)は、線繍と相良繍の應用ですから、〔二圖〕の(ろ)を御覽ください。(3)は平繍で、緣廻りを揃へず、最後に金絲をあしらふだけです。(基礎繍の項參照)(4)は相良繍應用で、(1)の花を繍ふとき結び玉の中央へ目打を(は)の(イ)のやうに刺して、リボンを裏へ引き、すぐ右側から針を布表へ出し、いなの元へ針を戻して(ロ)のやうに止めます。これは三つを一組にして、(ハ)のやうに高低をつけて埋めてゆきます。(5)は、縒繍と同じで固く縒をかけながら、隙間のないやうに埋めます。(基礎繍の項參照)(6)は平繍の應用で、(に)のやうに大きい花瓣だけ先に繍つて、間の花瓣を次に繍ひ、最後に金絲で花瓣一つ〳〵の輪郭を線繍にします。(7)は亂れ菊の感じを出すため、(ほ)のやうに下繪を隙間なく順々に埋めて盛り上げた、半縒の縒繍にします。

〔一圖〕『薬玉模様の圖案』

〔二圖〕薬玉模樣の繡方

のやうに、兩端を先に繡つて眞中をあとから繡ひます。圖案の下の方に散つてゐる花瓣は、縁廻りを金絲で線繡にしておきます。結び紐は線繡の幅を少し廣めにして、白、赤、桃色の三色で繡ひ、紐の總は色彩よく、（と）のやうに繡ひます。葉は全部拜み繡（基礎繡參照）ですから、ぼかしが揃ふやうに注意して繡ひ、金絲で葉脈を入れると、ぐつと引立ちます。

前側の模樣は、薬玉を半分にしたもので、たれは總だけをあしらひます以上のほかに花の心をすべて相良繡（基礎繡參照）でぎつしりと繡ひ埋め、中央の櫻は、淡紅色を（へ）が、繡方は、いづれもお太鼓と同樣です。仕上げも基礎のところを參照してなさいませ。（**平山みよ子**）

ショールに應用した可愛らしい花籠の繡方

口繪三頁寫眞（1）のショールは、紫紺のこつてりした天鵞絨に、可愛らしい花籠のリボン刺繡をしたものです。ショールのほかに、マフラー、ドレスの胸飾、手袋、ハンドバッグ、帽子、ネクタイ、ハンカチーフなど、いろ〳〵と應用して頂きませう。

▲**材料**＝各色とも一把づゝあれば結構です。口繪寫眞のは、薔薇が淡紅色のぼかし、勿忘草は青のぼかし、菫は紫のぼかし、葉は緑のぼかし、籠は茶、

〔一圖〕『可愛らしい花籠をあしらつたショール』

これだけの調和された色を選びました。

▲**繡方**＝毛羽立つて圖案を寫すのがむづかしいときは、布の上に圖案の紙を載せて、紙と一緒に繡ふなり、（なるべく破れ易い紙にしておいて、あとで紙を切り取る。）鏝で毛羽をねせて繡ひ、最後に蒸氣で毛羽立てます。

薔薇は、リボンを鯨尺で二寸五分から三寸（約十糎―十二糎）の長さに切つて、一方の耳端を細かくぬひ縮め、〔二圖〕（い）のやうに縮めた耳端を下に、渦巻狀に巻きながら別の共絲でところどころを布に止めて薔薇らしく整へ、最後のリボンを斜に切つて、目立たぬやう止めます。

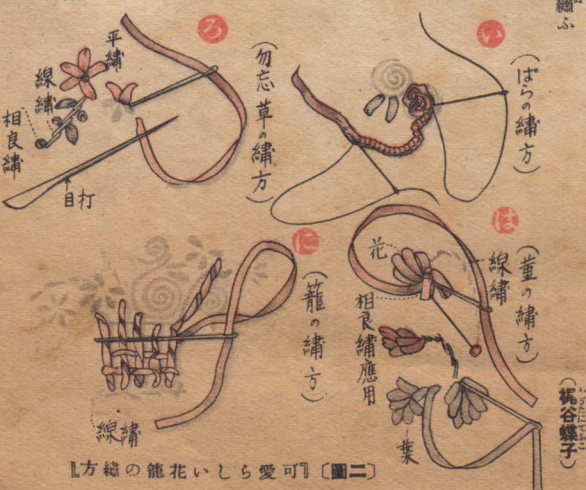
勿忘草は五瓣と四瓣の二つがありますが、どちらも〔二圖〕（ろ）のやうに、目打か編針を使つてふつくりと浮かし氣味に繡ひます。中の匂ひは黄色の釜絲を二本一本（日本刺繡の項參照）に縒つて、相良繡一つを入れてゆきます。

菫も平繡で、（は）圖の通りに繡ひ、最後の花瓣二つだけは弛めにリボンを巻いて、輪に殘したまゝ止めると、（相良繡應用）菫の感じがよく出ます。

莖は、フランス刺繡二十五番の綠絲二本で線繡にし、葉は拜み繡を應用して、中央から左右交互に繡つてゆきます。

花籠はリボンを縒つて初めは縱に渡し、（に）のやうにあとから交互にリボンをくゞらせ、籠の底を粗く線繡にすると、模樣が出來上りますから、〔一圖〕のやうに適當にあしらつて繡ひ、刺繡ができたら、裏から蒸氣を當てゝ、毛羽は柔いブラシで輕く擦つて起します。（**梶谷蝶子**）

〔二圖〕『可愛らしい花籠の繡方』

布置刺繡の繡方注意とその應用

布置刺繡は柄、地質、色彩などの組合せによつて圖案も生きるのですから、皆樣が初めてなさるにはまづ圖案をポスターや本などから考へて、實物大の繪を描いてみることです。

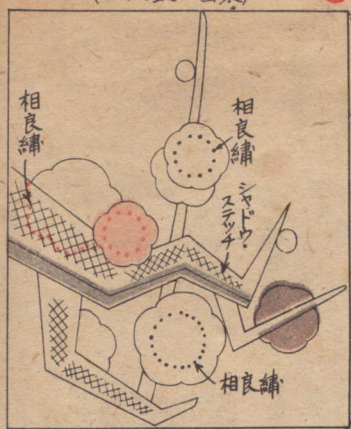
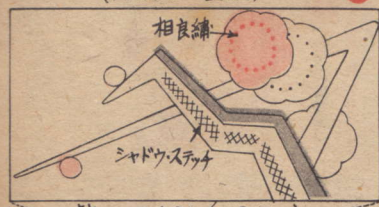
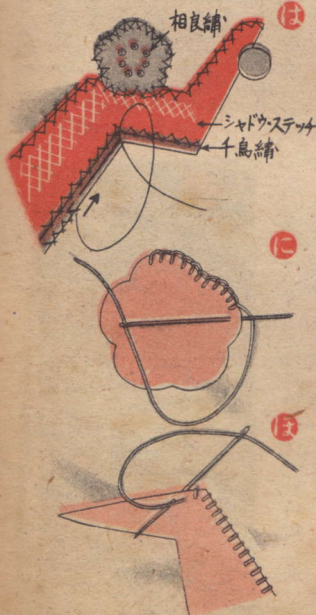
下繪が定りましたら、次に色の選び方ですが、赤や緑、その他の原色は下品になりますから、どんなものにも絶對に用ひないことです。赤をもし使ふときは、一色だけでなく、濃淡二色か、くすんだものを選び、配色に慣れない方は、なるべく同色系統を選ぶと無難です。

以上の點に注意して、ハンドバッグや長着、羽織、洋服などにいろ〳〵と工夫してごらんなさいませ。繡方や仕上げは、別項の日本刺繡やフランス刺繡と同じですから、適當に應用してくださいませ。

次に、布置刺繡の應用品を、二三御紹介いたしませう。

帶の再生に應用した小布利用の布置刺繡

私の教へてゐる學校（岐阜縣本巣高女）の生徒のお母さんが、地味で締められないといふ小紋風の名古屋帶を持つて相談に見えられたので、（い）（ろ）のやうな圖案を作つて、その生徒に布置刺繡させましたのが口繪一頁寫眞（5）の帶です。

口繪でも御覧の通り、再生品とは思へない上品な中年向の帶ができました。

▲布置刺繡の材料＝刺繡用の小布だからといつても、いざ集めようとしたのでは、いゝものがなかなか思ふやうにないものです。日頃から氣をつけて絣、絹、縮緬、毛織物などの小布を、新しいものでも古いものでも構ひませんから、集めておくと大そう重寶します。

（お太鼓の圖案）
鯨尺で九寸二分（35cm）
鯨尺で7寸4分（28cm）
相良繡
シャドウ・ステッチ
（前模樣の圖案）
鯨尺で四寸二分（16cm）
鯨尺で7寸5分（28.5cm）
千鳥繡
布置刺繡の繡方

梅は白絣（白地に黒）と青色と桃色と藤色を使ひ、枝は淡茶と黒にしてそれ〴〵の形に切り、ほつれるものは裏から縁糊を細く引きます。

縁繡の絲は、どんな布にも縒の強い絹絲が、私の經驗では一番よいのです。色は、布の色に合ふものをお選びください。

▲繡方＝ほかの刺繡の場合と同樣に、まづ下繪を寫します。繡ふ順序は中心から縁廻りへ、小さいものから大きいものへと順々にかゞつてゆきますが、これもいろ〳〵研究した結果、縁繡は（は）のやうに、なるべく小さな千鳥繡が一番よろしいやうです。しかし、（に）（ほ）のかゞり方でも模樣によつては引立ちます。

梅の花は、心を相良繡にし、太い枝にはシャドウ・ステッチ（フランス刺繡の基礎繡の項參照）を白絲で繡ひ、陰影をつけると枝がずつと浮き出てきます。

▲注意＝布置刺繡は地が薄くても、なるべく裏打しないことです。出來上りましたら、布海苔をごく薄く溶いて、模樣全體に霧を吹き、表から布を當てゝアイロンをかけると、ぴんと仕上げができますが、色が滲み出るやうな心配のあるものは、アイロンをかけるだけになさいませ。（加知茂）

ハンドバッグや帶などに向く 可愛い小花の布置刺繍

口繪二頁寫眞(2)を御覽くださいませ。別紙附錄表面(8)の實物大圖案を利用して、赤・黃・綠などの支那風の配色に、可愛い小花をハンドバッグに布置刺繍しましたところ、女學生好みの垢拔けしたものになりました。

花の置き方を替へて帶なりクッションなりに、子供服なら胸とか裾に、またエプロンなどに用ひても可愛らしいでせう。

▲布置刺繍の材料＝布置刺繍をする布は、どんな布でも結構ですが、これは口繪寫眞で御覽のやうな美しい色の木綿の小布を配色よく使ひました。綠かがりの絲は、模樣の布と配色のよいフランス刺繍絲の二十五番(細絲)を使ひます。(口繪のは黑)

▲繡方＝別紙附錄表面(8)の實物大圖案を、それぞれの用途によつて、配置を效果的に考へながら寫しとり、花や葉は別に圖案通りの型紙を作つて、用意の布を、その形通りに切り拔いておきます。この模樣の布を、下繪の上に動かぬ程度に糊をつけて貼り、圖のやうに、花と匂ひと葉の周圍はスカラップ・ステッチで、莖はアウトライン・ステッチ、匂ひの中はフレンチ・ナッツで愛らしく繡ひます。

繡方は、フランス刺繍の基礎繡の項を御參照くださいませ。(有山綾子)

『ハンドバッグや帶に向く小花の布置刺繍』

ドレスがすつきり映える 布置刺繍應用のカラーとカフス

口繪二頁寫眞(1)を御覽ください。白いカラーとカフスの、鋭角的な輪郭に沿つて赤い小布を布置刺繍した、若い人好みの一組。頭文字などを布置刺繍するのもよろしいでせうし、御自分のドレスに調和させて圖案や色をいろ／＼御工夫なさいませ。

▲布置刺繍の材料＝これは白のポプリンのカラーとカフスに、模樣は赤のポプリンを使ひました。布地や色などはドレスと調和のよいものを御用意くださいませ。

▲繡方＝まづ圖案に一分(四ミリ)通りの縫代をつけて模樣の布を裁ち切り、縫代分を裏側へ鏝でぴつたり折りますが、角々のところは、ごろ／＼せぬやうに、圖を參照して縫代を淺く切り、ほつれないやうに糊で止めておきます。

次に、圖案の位置を考へて、カラーやカフスの上に模樣の布を据ゑ、動かぬやうちよつと糊をつけて貼つたなら、共色のカタン絲で折山の布目一筋ぐらゐを掬つて、細かくまつゝてゆき、角々は圖のやうに、斜に絲を渡して押へます。

このまつるときの針目があまり細かすぎますと、ぴり／＼して綺麗にゆきませんから、御注意なさいませ。(古澤美惠子)

角は斜に渡す

『カラーやカフスに向く布置刺繍』

ペインテックスの描き方とその應用

實用的なペインテックス

ペインテックスといへば、趣味一方の手藝として、一般の人にはあまり應用されてゐませんでしたが、時代の變遷と共に、最近では最も簡便な實用手藝として歡迎されてまゐりました。帶、着物、羽織などの布には勿論、茶碗、灰皿、お盆などの、陶器や木、革にも應用が廣く、出來上つたものへすぐ描くことができますから、古物再生には特に好適です。

次に、初めてなさる方へも解り易く、基本となるものを一通り申上げませう。

ペインテックスの材料一揃ひ

ペインテックス用の繪具は、レリーフ・カラー(固煉繪具)十五色とソリッド・カラー(粉末繪具)四十五色が主となるもので、これは普通の繪具と同じやうに自由に混色ができます。

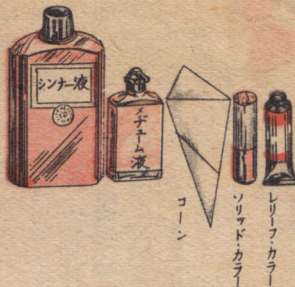
ソリッド・カラーの中には、ウール(毛粉末)と、シルケット(絹粉末)、金粉、銀粉、クリスタル(硝子玉で、ホワイトクリスタルは玉の大きさに大中小がある。)があり、それ／＼の使ひ方は後の方に申上げます。そのほか、メヂューム油とシンナー液、(どちらも繪具を溶くに使ふ。)揮發油などを使ひます。

以上申上げたもの全部を揃へる必要はありませんから、描き方のいろ／＼がお解りになつてから、必要なものだけ御用意ください。

便利な用具一揃ひ

『ペインテックスの材料と用具一揃ひ』

（い）

レリーフ・カラー　ソリッド・カラー　コーン　メヂューム液　シンナー液

コーン（パラフイン紙の筒袋）、毛筆、毛のごく軟い小刷毛または大筆、鋏、鉛筆、畫鋲、炭酸紙、（複寫紙）小皿二三枚など準備します。

下繪の描き方

繪心のある方なら下繪なしでいきなり思ひのまゝに描くことができますが、普通は下繪を描いておくと失敗なくできます。

厚地のものなら、炭酸紙を用布の上におき、その上に圖案を描いた紙を載せて、動かぬやうに周圍を畫鋲で止めておき、鉛筆か鐵筆で圖案通りに描きます。これで解り難いものは、圖案紙に白のコーンで直接圖案通りに細く線描をし、（『コーンの描き方』參照）すぐ用布の上へ當てがつて、上から輕く押へるとはつきりつきます。このとき、圖案紙の裏側へ描かないと、圖案の左右が逆になりますから御注意ください。布、革類、木、陶器なども、この方法で描けばよいのです。

ごく薄地のものなら、圖案の紙を布の下に重ねると寫りますから、そのまゝ繪具で描いてもよろしいでせう。

固煉繪具の使ひ方

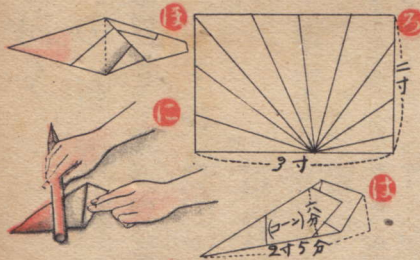
線描と、筆描にする場合がありますが、線描にするときは、コーン、つまり筒袋に繪具を入れて、搾出し式に描くのです。

『コーンの作り方と繪具の入れ方』

（ろ）　二寸　3寸

（は）　コーン　六分　2寸5分

（に）

（ほ）

▲**コーンの作り方**＝繪具と一緒に賣つてゐます。が、御自分で簡單に作れます。まづパラフィン紙を（ろ）のやうに、幅二寸（七糎五粍）丈三寸（十一糎五粍）に切り、（は）のやうになるべく細く漏斗形に卷いて端を糊で貼ります。コーンが不完全にできてゐると、どんなに手が熟練してゐても、きれいな線が描けませんからくれ〴〵も御注意ください。

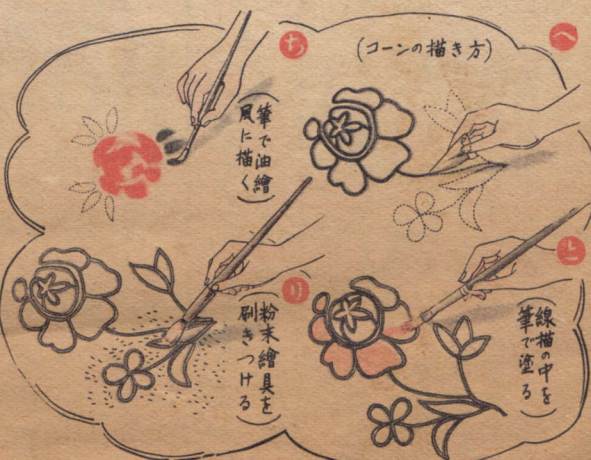
▲**コーンの描き方**＝コーン描は、ペインテックスの生命ともいふやうなもので、これが上手になればもう一人前といへませう。初めての方は何より先に、コーンの描き方を練習なさいませ。

まづ好みの色の固煉繪具をコーンに入れますが、一度に澤山入れると、コーンが破れたり繪具がはみ出したりしますから、三分の一くらゐ入れるのが丁度よいのです。入れるには繪具のチューブをコーンの中へ押し入れ、徐かにチューブを押して搾り出しますが、コーンの口や手に繪具をつけないやう、注意が肝腎です。

繪具が入つたら、平において、（に）のやうに口元の方を左手で押へ、鉛筆か筆の軸で中の繪具を先の方へ送ります。そして、コーンの口元を（ほ）のやうに、初め兩脇を斜に折つてから、三つか四つにくる〳〵と折りたゝみ、コーンの先を眞直に鋏で切ります。

切口は、普通木綿絲一本くらゐの太さにしますが、もつと太い線を描きたいときには大きく開ければよろしいのです。

これで用意萬端整ひましたから、さて描き始めませう。

（へ）のやうに、拇指と食指でコーンの上部を持ち、下繪通りにコーンで線を引いてごらんなさい。この要領がなか〳〵大切なのです。二本の指先で繪具を輕く押し加減にして、少し斜に持ち、心持ち浮かせ氣味に描くと、きれいにできます。線が太くなつたり、細くなつたり、また切れ〴〵になつたりしないやう、充分練習なさいませ。

コーンの繪具が少くなりましたら、丁度チューブ入の歯磨を使ふときのやうに、口元をだん〳〵折りたゝんでゆき、先はとき〴〵小布で拭くとよろしいのです。

花や葉の輪郭は勿論、全體を線描だけで仕上げても面白いものです。この上に粉末繪具をかけたい場合は、『粉末繪具の使ひ方』を御覧ください。

（コーンの描き方）

（へ）

（と）（線描の中を筆で塗る）

（ち）（筆で油繪風に描く）

（り）（粉末繪具を刷きつける）

『ペインテックスの基礎になる描き方いろ〳〵』

◆筆描＝　先に輪郭を線描した花や葉の中を彩色するときとか、全然輪郭なしで油繪風に描きたいときには筆描にします。

まづチューブの繪具をほんの少し小皿に出し、メヂューム油をやはり少し加へて、筆でよく溶き混ぜます。濃さは筆で描けて、油が布地に滲み出ない程度がよいのです。そして、線描の中を(と)のやうに塗るなり、(ち)のやうに油繪風に描くなり、あまり厚くならぬやうに御注意ください。

場所によつては、固煉繪具をシンナー液で溶くとさらっとした感じになります。

◆注意＝　固煉繪具をつけて乾いてしまつたらもう絶對に落ちませんから、もし布を汚したやうなときは、すぐ揮發油で拭き除つて頂きます。

粉末繪具の使ひ方

コーンか、または筆で描いたまゝでもよいのですが、更に美しく精巧なものにするため、この上に粉末繪具を振りかけます。

ですから、先に描く固煉繪具は、なるべく振りかける粉末繪具と似寄りの色をお使ひください。例へば、金粉をかけるなら黄色、銀粉をかけるなら白といふやうに。

◆粉末繪具の效果＝　コーンで描いた線に、金粉を振りかけると、丁度金絲で刺繍したやうになり、銀粉をかけると、銀絲の感じになります。

また毛粉末をかけると毛絲刺繍のやうに見え、絹粉末をかけると、日本刺繍かと見違へるやうな效果が擧ります。

白硝子玉を使ふ場合は、下の固煉繪具を赤にすれば赤に、綠色なら綠色になつて、丁度ビーズ刺繍のやうに、光線にきらく映えて美しいものです。

◆粉末繪具のかけ方＝　線描や筆描が乾かないうちに、繪具の壜から直接に、布の上へ少しづゝ振り落し、毛のごく軟い筆で、(り)のやうに繪の上に萬遍なく刷きつけます。殘つた餘分の粉は、紙にでも刷きとつて、元の壜へ戻しておくと、無駄がありません。

なほ注意したいことは、固煉繪具で綠色にしたい部分だけを描いてしまつたなら、すぐに粉末繪具を刷きかけ、また別の色のところを同じやうに繰返して、一色づゝ仕上げてゆくのです。

仕上げ

出來上つたなら、日陰で充分に乾かすことが大切で、塗つた厚さにもよりますが、少くとも一週間から二週間、物によつては一月も乾かす必要があります。すつかり乾いてしまへば、洗濯をしても揮發油で拭いても絕對に落ちません。

これで、ペインテックスの基本になる描き方の一通りを申上げました。これだけをよく覺えてしまへば、あとはいろくに工夫して、新品に、再生に、廣く應用なさいませ。なほ着物などを再生する場合は、こんど染めてもまた元のペインテックスがそのまゝ殘りますから、いよく最後の手段となさつた方がよろしいでせう。

コーン描と筆描で花模様のハンドバッグの描き方

前項で基本になる描き方を申上げましたから、その應用品として、口繪四頁寫眞(2)にお目にかけたハンドバッグの花の描き方を御紹介しませう。

この圖案は、草履、帶、クッション、テーブル掛などにも向きます。

◆材料と用具＝　色はお好みですが、固煉繪具の淡紅色、えんじ、鼠色、綠、コバルト、黃色、白など、これは、なるべく少い色數で、自由に混色なさいませ。ほかに金粉、銀粉、小さい玉のホワイトクリスタル、(白い硝子玉)メヂューム油など。

用具はコーン、筆は描くのを一本と、粉末繪具を刷く毛の軟いもの、小皿二三枚を用意します。

〔一圖〕同じ圖案を應用したハンドバッグと草履

◆描き方＝(1)…〔二圖〕の模樣の下繪を描いたら、記入の色彩の通りまづ葉と莖の輪郭はすべて白の固煉繪具を入れたコーンで線描し、すぐに銀粉を刷きかけます。

(2)…次に花の輪郭を、黄色の固煉繪具で下繪通りにコーン描し、金粉を刷きます。

(3)…彩色は自由ですが、大體〔二圖〕のやうに細書の筆で、輪郭の線につかぬやう中を塗り埋め、ホワイトクリスタルを振りかけます。

これで描き上りましたから、手で觸つてもつかなくなるまで充分に乾かします。

綠　銀　金　金　赤　銀　えんじ　コバルト　二寸五分　2寸7分

〔二圖〕『ハンドバッグの圖案と配色』

〔三圖〕『近代好みのハンドバッグと同じ圖案を應用した帶』

帶にも向く圖案の近代好みなハンドバッグ

口繪四頁寫眞の(3)でお目にかけたハンドバッグは布地にペインテックスで描いたものですが、手擦れした古い革ハンドバッグなどの再生にも好適な圖案です。帶なども擦り切れたところを接ぎ替へて、接目を隱すやうにして、この圖案の一部分を御利用くださいませ。

▲材料と描き方＝色合は御隨意ですが、こゝでは地色が紺なので黄、赤、綠、鼠色、茶、青、白などの固煉繪具と、金粉、銀粉、小さい玉のホワイトクリスタル、メヂューム油などを使ひました。配色は口繪寫眞を參考になさつて、前項と同じ要領でお描きくださいませ。

ネクタイやスカーフを手輕なペインテックスで再生

『ペインテックスで生かしたネクタイとマフラー』

縮め古して何となく垢染みたネクタイなどは、一旦濃い無地に染めて、口繪二頁寫眞(7)のやうにペインテックスで生かすと、素晴しいものに若返ります。この圖案は、スカーフやショールなどにもふさはしいでせう。圖のやうに、白と赤、または綠などの固煉繪具でごく細くコーン描にし、上から銀粉を刷くと面白いものができます。(以上 荒川喜勢子)

コーン描を上手に應用した紅葉模樣の草履

ペインテックスは一度描いたらもう絶對に剝げませんから、草履などには最もよい方法です。なるべく無地の草履を求めて、好きなものを描いてごらんなさい。とても立派な外出用草履になります。口繪四頁寫眞(8)でお目にかけたものゝ描き方を御紹介いたしませう。

▲材料と描き方＝配色は、地色によつて違ひますが、こゝでは固煉繪具の白、黄、鼠色、黒と、メヂューム油、金粉、銀粉などを使ひました。

まづ下繪を描いたなら、(ろ)を參照して、圖に線を入れてある葉だけ、コーンで圖の通りに線描で埋め、葉先の方へ、ところ〳〵ぼかすやうに銀粉を刷きます。

次に、殘りの葉と枝を、固煉繪具で筆描し、葉脈を金粉で筆勢をつけて描きます。

最後に、(い)で御覽のやうな鹿の子を、白の固煉繪具で手際よく描き、鼻緒にもあつさりと散すと、出來上ります。(片野司)

『紅葉模樣の草履と圖案配色』

(ろ) 鯨尺で三寸八分(14.5cm) 2寸(7.5cm)

主婦之友(第二十四卷第二號)附錄
昭和十五年一月六日印刷納本
昭和十五年二月一日發行
編輯兼發行兼印刷人 八代登
印刷所 大日本印刷株式會社榎町工場
發行所(東京神田駿河臺) 主婦之友社

今日はお天氣日本晴れ
洗濯しませう
ジャブ　ジャブ
もまずこすらずサッパリと
汚れが落ちる新洗劑

毛類・ス・フ・人絹類の
お洗濯はぜひワッセンで

よくおちる事石鹼の數倍
しかも生地を傷めず黃ば
ませず新品同樣フックラ
として光澤を增す

全國藥店ニアリ

定價
小　一、三五セン
大　一、二〇セン

専賣特許の………新化學洗劑

ミヤコ ワッセン

みやこ染本舗發賣　日本油脂會社製造

肌にしみ込む榮養素！

クラブ乳液

一滴…一滴…肌にしみこんで健康な若肌の素となる素晴しい榮養力！ホルモンやヴィタミンの生理作用で小じわ・肌アレを解消すると共にシミ、ソバカスを薬効的に分解します。

お顔が美しく若返る！

働いてしかも美しい手に！　毎日のお炊事、お流し、お洗濯などの後にクラブ乳液さへつけておけば冷い水仕事にもお手がアレません。その上ヒビ、アカギレを防ぎ色白くすんなりさせます。

手が白く美しくなる！

興亞女性の身だしなみなら健康化粧。まづクラブ乳液でお顔をふきそこへクラブ美身クリームをのばし、クラブはき白粉をつけ後はクラブほゝ紅口紅、まゆ墨で仕ます。

健康化粧が手早く出來る！